

研究機関名：旭川医科大学

承認番号	22067
課題名	新型コロナウイルス感染症による小児外科診療への影響に関するアンケート調査
研究期間	西暦 2022年 8月 29日 ～ 2023年 3月 31日
研究の対象	日本小児外科学会認定施設・教育関連施設において、 ① 2018年1月～2022年6月に、急性虫垂炎、肥厚性幽門狭窄症の治療を受けられた方。 ② 2020年1月～2022年6月に、COVID-19陽性で手術を受けられた方、および急性腹症の治療を受けられた方。
利用する試料・情報の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 診療情報（詳細：初診日（年月のみ）、入院日（年月のみ）、手術日（年月のみ）、診断名、治療内容、手術記録、診療録など。）
外部への試料・情報提供	<input checked="" type="checkbox"/> 多施設共同研究グループ内（提供先：日本医学会連合（門田班））（提供方法：アンケート調査報告書を電子的配信などで提出。データの提供は、特定の関係者以外がアクセスできない状態で行います。対応表は、当センターの研究責任者が保管・管理します。）
研究組織	日本小児外科学会 認定施設・教育関連施設：201施設 http://www.jsps.or.jp/business/roster
研究の意義、目的	新型コロナウイルス感染症の小児外科診療への影響を調査し、今後の日本小児外科学会の活動の指標、学会員への支援、関連他学会との連携、行政への働きかけ等に資することを目的としてアンケート調査を行い、結果を解析して報告します。
研究の方法	アンケート調査の対象は、日本小児外科学会認定施設・教育関連施設の <u>201施設</u> であり、期限までに回答を得たものに対して <u>後方視的</u> 解析を行います。 (1) <u>小児外科でよく診る疾患であり、外科的介入を避け保存的加療を選択することがある代表的疾患である「急性虫垂炎」、「肥厚性幽門狭窄症」</u> に対して、コロナ禍の各期間で、 <u>外科的介入を避け保存的加療を選択することが増えたかどうか</u> 、について調査を行います。 (2) 小児外科で COVID-19 陽性でも手術が施行された症例の疾患名、術式、周術期留意点および術後経過について調査を行います。 (3) 急性腹症*を主訴に受診した患児で COVID-19 が陽性と診断された患児の疾患名、外科的介入の有無、治療経過について調査を行います（*急性腹症の定義は、「急激に発症した腹痛の中で緊急手術を含む迅速な対応を要する腹部疾患群（急性腹症診療ガイドライン 2015）」とします）。 以上を目的としてアンケート調査を行い、 <u>コロナ禍を3期に分けて解析</u> します。 (2)、(3) においては、具体的にどのような疾患があり、経過に影響があったかどうかについて調査を行います。

	以上より、COVID-19 感染まん延の小児外科診療への影響について考察します。
その他	<p>本研究の実施に際しては特に資金を必要としません。</p> <p>本研究は企業や団体とのかかわりは無く開示すべき利益相反事項はありません。実施場所においてもインターネットにて職場あるいは自宅などで実施されるため、交通費や移動による時間などの負担はありません。アンケート調査への協力は日本小児外科学会認定施設・教育関連施設の責務であり、謝礼は発生しません。</p>
お問い合わせ先	<p>本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。</p> <p>また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。</p> <p>照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：</p> <p>〒078-8510 旭川市緑が丘東2条1丁目1番1号 旭川医科大学 外科学講座 血管呼吸腫瘍病態外科学分野小児外科 電話 0166-68-2494 FAX 0166-68-2499</p> <p>研究責任者： 旭川医科大学外科学講座 血管呼吸腫瘍病態外科学分野小児外科 講師 宮城 久之</p>